

「2019 核兵器廃絶と恒久平和を求める平和行動」の取り組み 報告

「核兵器廃絶 1000万人街頭署名」と「恒久平和を求める県民集会」を開催 ～街頭署名、デモ行進で市民の皆さんに訴える～

連合福島は、この程8月23日（金）16時30分～福島駅前東口において「核兵器廃絶 1000万人署名の街頭署名行動」を実施。さらに翌日24日（土）は、10時～県教育会館大ホールにて、「核兵器廃絶と恒久平和を求める県民集会」を開催した。

街頭署名行動では、今野 泰連合福島会長が世界における核兵器保有の現状と懸念、そして世界唯一の被爆国としてノーモアヒロシマ・ノーモアナガサキ、そして核不拡散条約への批准と地球上から核兵器のなくそうと訴えかけながら、通行市民の皆様へ署名への理解と協力を求めた。

また翌日は、県内各地から約300名もの仲間が結集し、「核兵器廃絶と恒久平和を求める県民集会」が行われ、さらには集会に引く続き、街頭デモ行進を実施し、市民アピールした。

集会冒頭、今野 泰連合福島会長は、「被爆74目を迎え、今国際社会は『核なき世界』への取り組みが後退し、軍拡

へと向かおうとしており、許されない殺害と殺戮が繰り返されている。大変痛ましく遺憾と言わざるをえない。何より苦難と闘っている被爆者の方々の思いを斟酌すれば逆行するものである。また、世界唯一の被爆国が、核兵器禁止条約の採択に参加しないということも到底認められるものではない。私たちは、『核は非人道的、絶対悪である』ということ核保有国に対し主張し続けなければならない。『核なき世界の創生は、人類全体の願いであり目標である。』ことをこの集会で再確認いただくとともに、今、取り組んでいる核兵器廃絶1000署名への理解と協力もお願いし連帯挨拶とする。」と主催者挨拶した。続いて、基調講演では、広島県被爆者団体協議会から理事長代行・箕牧智之様を講師にお迎えし、「戦争、原爆と私の人生」の演目でお話をいただきました。集会はアピールを全員で採択し終了した。

尚、集会に引き続き街頭デモ行進が行われ、シュプレヒコールなどのアピールにより市民への共感・共有を求め二日間の平和行動を締めくくった。



主催者挨拶をする
連合福島 今野会長



自らの被爆体験をお話し頂いた、
広島被団協 箕牧理事長代行



平和とアピールを提案する
連合福島青年女性委員会・小林幹事



司会の連合福島
阿部副事務局長



県内各地から約300名が参加した「核兵器廃絶と平和を求める福島県民集会」、左から、来賓のKAKKIN福島 遠藤議長（左）・原水禁福島県民会議 村上副代表（右）、熱心に傾聴する参加者の皆さん、平和集会後に参加者による「市民へのアピールデモ行進」の様子、前日に行われた「核兵器廃絶 1000万署名」の様子